令和6年度　第3回市長と能ん美りカフェトーク

# 粟生町会との市長と能ん美りカフェトーク

日　時　　令和6年8月7日（水）18:30～19:30

会　場　　粟生町公民館

参加人数　9人

〇粟生町会長　参加者紹介

〇はじめに

【市長】

・能美市では、令和４年からデジタル技術を導入して、市民の皆さんの安全・安心、快適な暮らしをつくっていこうと力を入れている。それが能美スマートインクルーシブシティ構想である。インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味で、いわゆる地域共生社会、健康な人も、高齢者も、障がい者も、子どもたちも、それから外国人も、能美市に住む全ての人たちが取り残されないようにしようという意味であり、それをデジタルの力を使ってまちづくりを行っていこうとしている。

・令和４年から様々な取り組みを行ってきており、令和６年には、６つの柱の取り組みを進めていく。その中の大きな一つがデジタル公民館であり、公民館を使って安心・安全、快適な暮らしを皆さんに提供していく。

・公民館には様々な人が訪れるので、多世代間の交流の場にしようと考えている。高齢者はいきいきサロンやスマホ教室、子育て世代はｅスポーツ、Chromebookを持った子どもたちは勉強をする。スマホや勉強のことをお互いに教えあったり、一緒にｅスポーツを行ったりして、公民館で世代間の交流を行ってもらう。

・現在、オンライン診療も計画している。例えば高血圧だと、毎月１回お医者さんに行って診察を受けて薬をもらってるが、それを公民館でオンライン診療を受けることによって、お医者さんに行かなくても薬をもらえるようにしようとしている。

・公民館は避難所になることが多いので、マイナンバーカードによる避難所受付を行おう

と進めている。

・市内82の公民館で一斉に取り組むことができないので、まずはモデルケースをつくって、様々なことを検証しながら、課題等を確認した上で、進めていきたいと考えていた時に、粟生町の皆さんからご協力をいただけるとのお話をいただいた。粟生町には、保育園や小学校、児童館がある。また、いきいきサロン等の集まりが大変盛んでもあり、地域力強化支援ファンドを活用して買物支援もされている。人口は今、約1,700人で、高齢化率が23%であり、能美市が26.5%なので、粟生町は比較的若い人が多い。ぜひ粟生町で検証させていただきたい。

・具体的に粟生町で何をしていくかというと、オンライン診療である。オンライン診療は、病院に行かなくてもお医者さんがカメラの向こうで診察をしてくれるということであるが、そうそう簡単なことではない。まず、普段診てもらっているお医者さんがカメラの前にいないと、オンライン診療ができない。また、カメラを通して見ただけでは診察ができず、血圧や心拍数を測る必要がある。この粟生町公民館で、能美市立病院にかかっている人たちを対象に始めたいと思っており、将来的には芳珠記念病院やそのほかの病院へ順次広げて、オンライン診療のシステムを築き上げていきたいと考えている。オンライン診療ですべての病気が診察できるわけではなく、高血圧や糖尿病等、いわゆる慢性疾患といわれる病気が対象となる。

・粟生町で物流サービスも行っていただく。オンライン診療をしても薬を受け取りに行かなければならないと、魅力が半減する。粟生町では、地域力強化支援ファンドを使って、買物支援を必要としている人たちの送り迎えをされているが、例えばその車を使って、薬を持ってきてもらうようにできないかと考えている。将来的には、ライドシェアを使って、薬を持ち運びできないかというようなことも検証していく。

・物流サービスとして、薬だけではなく、様々な買物も行えるようにする。スマホから、自分の欲しい物を選ぶと、それを公民館まで届けてもらえるようにしようと思っている。最終的に家まで運ぶことができると良いが、公民館に歩いてきてもらうことで健康にも良かったり、様々な人と交流ができたりする。ただ、重い荷物を持って帰ることは難しいので、ライドシェアでカバーしようと考えている。

・オンライン診療や物流サービスをサポートする人が、公民館に必要となる。間違って注文していない商品を持って帰る人もいるし、冷凍食品や冷蔵食品の区分け、管理も必要となってくると、公民館に誰か管理する人がいないと対応できない。コミュニティナースを

育成してサポートしてもらえるようにしようと考えている。

・市内82の公民館にＷｉ－Ｆｉを整備し、すでに粟生町公民館も通信環境は整ってはいるが、不足しているものや、してほしいこと等をお聞きしたいと思い、本日の能ん美りカフェトークを開催させていただいている。

〇意見交換

＜オンライン診療＞

【参加者】例えば、能美市立病院へ今、高血圧等でかかっている粟生町の人の人数は把握しているのか。

【市長】20人程いらっしゃり、まずはその人たちを対象にオンライン診療を始めたいと考えている。最低限の医療機器を粟生町公民館に配備し、安全に安心して受診していただけるよう、運用方法について検証していきたいと思っている。

【参加者】診察時間帯は病院の都合もあると思うが、どうなるのか。

【市長】ある時間帯に集中して診察をした方が双方にとっても良いと思うので、例えばそれを水曜日の午後等、設定していきたいと思う。ただ、様々な都合でこの時間は都合がつかないこともあるかと思う。その人が診察を受けるのは、１か月に１回程度だと思うので、第１班は第１水曜日の何時から、第２班は第２水曜日の何時からというように決めて行っていく感じになるかと思う。

【参加者】内科のかかりつけの先生が異なるのではないのか。

【市長】できるだけ集中対応しようと思っているが、Ａ先生の場合は第１水曜日の何時から、Ｂ先生は第２水曜日何時からというような形にする等を考えている。様々なご都合があると思うが、病院へ行って診察を待ち、さらに薬をもらうという手間と公民館に来ること、どちらが楽かというような比べ方になると思う。

【参加者】オンライン上の診察なので、「変わりありませんか、どうですか」「いや、特に変わったことないです」そういうやり取りでの内容までになってしまうのか。具体的に血圧を測るような行為はできないのか。

【市長】最初は問診から始めることになるが、やはりそれだけでは医療情報が不十分なので、先ほど申し上げたようにこちらに機器を置いておいて、血圧や脈拍等を測ってもらったデータを医師にお伝えすることを考えている。

【参加者】血圧や体重だったら良いが、例えば、分析をするのに血液検査だと１週間ぐらい、検尿もそれなりの時間がかかる。お医者さんは大体毎回同じ薬を出すとは思うが、その分析したデータ値を見ながら、薬の度合いを多少、「じゃ今回、強めにしますよ」、「弱めにしますよ」等はしているのではないかと思う。

【市長】私もある薬を飲んでいて、１か月に１回、その薬をもらいに病院に行くが、大体顔色を見て、血圧を測って、「同じ薬を出しておきます」というパターンが多い。いつもの診察をカメラを使って行うだけであり、診察の結果、直接対面しないと判断できない症状がある場合には、「病院に来てください」ということになり、オンライン診療から対面診療に変わる場合もある。

【参加者】オンライン診療について、賛成ではあるが、どうしても何かあったらと考えてしまう。内科のお医者さんにかかるときは、常に看護師がそばにいる状態であるが、血圧を自分で測ったら異常値であったり、例えば公民館に暑い中来て、脱水症状が出て、オンライン診療の受診前後に何かあったりした場合が心配である。受診者が勝手に来て勝手に帰るというのではなく、専門的な知識のある人を公民館に置いておいた方が、最初はいいのではないかと思う。引退した看護師やボランティア等に少しインセンティブを与えるような形で働いてくれる方を募集すると良いのではないか。そういう人が１人いるだけで、オンライン診療への敷居がすごく下がる。導入にあたって、そういう人を１人ないし２人、交替制でもシフト制でもいいので、配置いただけると良いと思う。

【市長】まさにそのようなことを検証していく。オンライン診療は、日本では医師不足に対応するために始まった。例えば離島でお医者さんがなかなか診察に行けない等を想定しており、数年前には一般の公民館でオンライン診療を行うということは認められていなかった。しかし、様々な問題が出てきて、できるだけ利便性を高めるために制度が変わってきている。ただ、今おっしゃられるような懸念があるので、検証しながら、進めていきたい。

【参加者】能美市立病院から順次広げていくという話であったが、町医者に通われている

方も多いので、そちらの方にも広げていく予定はあるのか。
【市長】将来的にはあるが、問題はいつも診てもらっている先生でないと駄目であるということである。クリニックにもオンライン診療を広げていくつもりであるが、医師会と相談しながら検討をしていきたい。

【参加者】今のところ粟生町だけで検証を行うのか。
【市長】もう一つ、芳珠記念病院近くのG-Hills内のデイサービス事業所で行っていきたいと思っている。いろいろ検証させていただいて、課題を解決しながら、他でもオンライン診療を行えるように整えられれば、他の公民館や介護事業所にも横展開していきたい。

【参加者】能美市外でかかりつけ医を持っている人は、オンライン診療の対象にならないのか。
【市長】何しろ人数が重要である。能美市民で１人だけしかかかっていないクリニックには、なかなか導入することが難しい。かかっている人が多いところから始めないと、効率が上がらない。また、オンライン診療をする上で、お医者さんはオンライン診療を行うための認定を取らなければならない。

【参加者】診察料の支払いはどうなるのか。
【市長】それが今課題で、どうするか検討している。その都度払うのは難しいので、病院受診の時にオンライン診療分とまとめて払う等の方法もあるかと思う。
【参加者】請求書を病院から個人宅に郵送で送ることはできないのか。お金は、コンビニで払えるようになると良いと思う。
【市長】実は今、並行して能美市でデジタル通貨の導入を考えていて、診察料等も電子マネーで支払うことができないかと考えている。
【参加者】一旦、お金を電子マネーに換金して、能美市立病院に支払う場合、スマホ決済となるかと思うが、スマホを使えない高齢者がたくさんいる。若い世代は電子マネーをよく使うので問題ないが、オンライン診療を受けるような人はスマホ自体を使えない、操作できない人たちが多いのではないかと思う。
【市長】おっしゃるとおりで、スマホ教室等も併せて行わなければならないと思っている。しかし、支払いに関しては医療法の問題で様々なハードルがあり、簡単にいかない。

【事務局】オンライン診療で毎回受診するということは基本できず、定期的に病院に行って、直接対面で診察を受けることが必要となる。その際にまとめて支払うという方法もあるかと思うので、様々なことをクリアしながら進めていきたい。

【参加者】オンライン診療は、何回続けて受けられるのか。
【事務局】対面による受診の間にオンライン診療を入れるような形になっていくと思う。
【参加者】病院へ行く数が減ることは、良いことだと思う。

＜スマート物流＞
【参加者】これも公民館に集約されて、お世話する人が必要になると思うが、誰がお世話するのかという問題が生じる。
【市長】市内のどのお店を対象にして買物ができるようにするかという問題もある。Ａ店、Ｂ店、Ｃ店で行いますとなったときに、同時に商品が公民館に届き、皆さんに取りに来てもらえると良いが、それぞれがバラバラになってしまうことも考えられる。
【参加者】コインロッカーのようなものを並べて、そこに入れておいてもらうことはできないのか。冷凍や冷蔵のものもあると思うので、そういったものに対応できるようなロッカーがあれば良いのではないか。
【市長】粟生町の人口は約1,700人なので、たくさんの個人ロッカーが必要となる。また他の町にも個人ロッカーを整備しなければならないとなると、大変な話となる等の課題がある。

【参加者】日用品と書いてあるが、食材も含まれるのか。
【市長】まずは日用品から対象として行う。将来的には、冷蔵品や冷凍品も行えるようにしたいが、どのように取り組めるかを検証していきたい。

【参加者】山間部では、マイクロバスでスーパーまで送迎しているところもある。公民館に商品が届く場合、食材には賞味期限等があるが、注文者が取りに来ず、物が悪くなったら、だれの責任になるのか。そういう問題が出てくるのではないか。
【市長】注文したものを移動販売車が持ってきて、取りに来てもらうという方法もある。公民館に行けば、冷蔵庫や冷凍庫のしつらえのある車が注文した商品を公民館を届けに来

ていて、そこから取り出せれば、商品の受け取り間違いも防げるのではないかと思う。

【参加者】薬をライドシェアで配達するという話があったが、食品もライドシェアで運ぶというのはどうか。

【市長】食品もとなると、ライドシェアの車に冷蔵庫を積まなければならなくなる。わざわざお店へ行かなくても、パソコン等から注文したものが何らかの形で手元に届くようにしようという考えであるが、それを個別配送するとなると大変なので、公民館に取りに来てもらう方法で行えないかと考えている。家でじっとしているのではなく、公民館に歩いて取りに来てもらうことで健康にもつながり、先ほど説明した多世代間交流もできる。ただ、たくさん注文すると、持ち帰りが大変になることから、補完する方法が必要ということで、先ほどライドシェアという話をした。

【参加者】これも支払いの問題が発生してくると思う。

【市長】こちらはキャッシュレス決済で対応するしかないと思っている。いわゆるネット注文なので、そこで決済まで行ってしまう。

【参加者】買物支援を必要とする人もやはり高齢者が多いので、難しいのではないか。

【市長】例えば、自宅で自分で注文できない人は、最初に公民館でコミュニティナースと一緒に注文できるようにする等考えていかなければならないと思ってる。もしくは、個人の携帯を使うのではなく、公民館に大きなスクリーンを置いておいて、コミュニティナースと一緒になって、注文や決済を行う方法も考えられる。

【参加者】注文のサポートは絶対必要だと思う。字が見えず、間違って大量の商品を注文している方が生協等でもいらっしゃる。支払方法は、キャッシュレス決済だけでなく、移動の冷凍車、冷蔵車が来たときに、そこで支払うような形でもいいのではないか。

【市長】その方法でも良いかもしれないが、注文して取りに来ない場合の支払の問題がある。

【参加者】物流サービスはいつから始まるのか。

【市長】粟生町の場合は、まず薬だけで始めさせてもらって、日用品は別のところから始めさせてもらうつもりであるが、ご要望があれば検討する。

＜多世代交流＞

【参加者】コロナが流行して、家の中で友達と遊べずに、軒先でオンラインゲームをやっている子どもたちがいる。防犯上、何があるかも分からないので、公民館で集まって、高齢者の方たちの見守りの目がある中で子どもたちが遊べると良いなと思った。公民館でオンラインゲームをしながらも、高齢者の方と触れ合う環境があると、子どもたちの高齢者に対する壁がなくなって、包括的なインクルーシブ社会の礎になるような関係性づくりができるのではないか。中学生、高校生になると、なかなか公民館に寄りつかないが、Ｗｉ－Ｆｉが使えて、涼しく勉強ができると変わってくるのではないかと思う。特に夏休みだと、子どもが１人で家にいるので、少し怖い。また、電気代も高いので、家でエアコンをつけなくても良いので、親としても助かる。

【市長】公民館に例えばタブレット50台ほど持ってきて、Ｗｉ－Ｆｉに繋いでも速度が遅くならずに使えるのか。

【事務局】業務用の機器をつけているので、大丈夫である。

【参加者】プロジェクターを使って大画面で、ｅスポーツをしてみたい。

【市長】プロジェクターをお貸しするので、町民の方に体験してもらって、どんどん公民館に来てもらえるような仕掛けを考えてもらえると嬉しい。

【参加者】今、月一でまちカフェを開催していて、午前中コミュニティセンターが開いている。その時に空いている部屋でｅスポーツ等を行って、みんなを寄せられないかと考えている。

○閉会